

日本医療研究開発機構における課題管理(資金管理)について

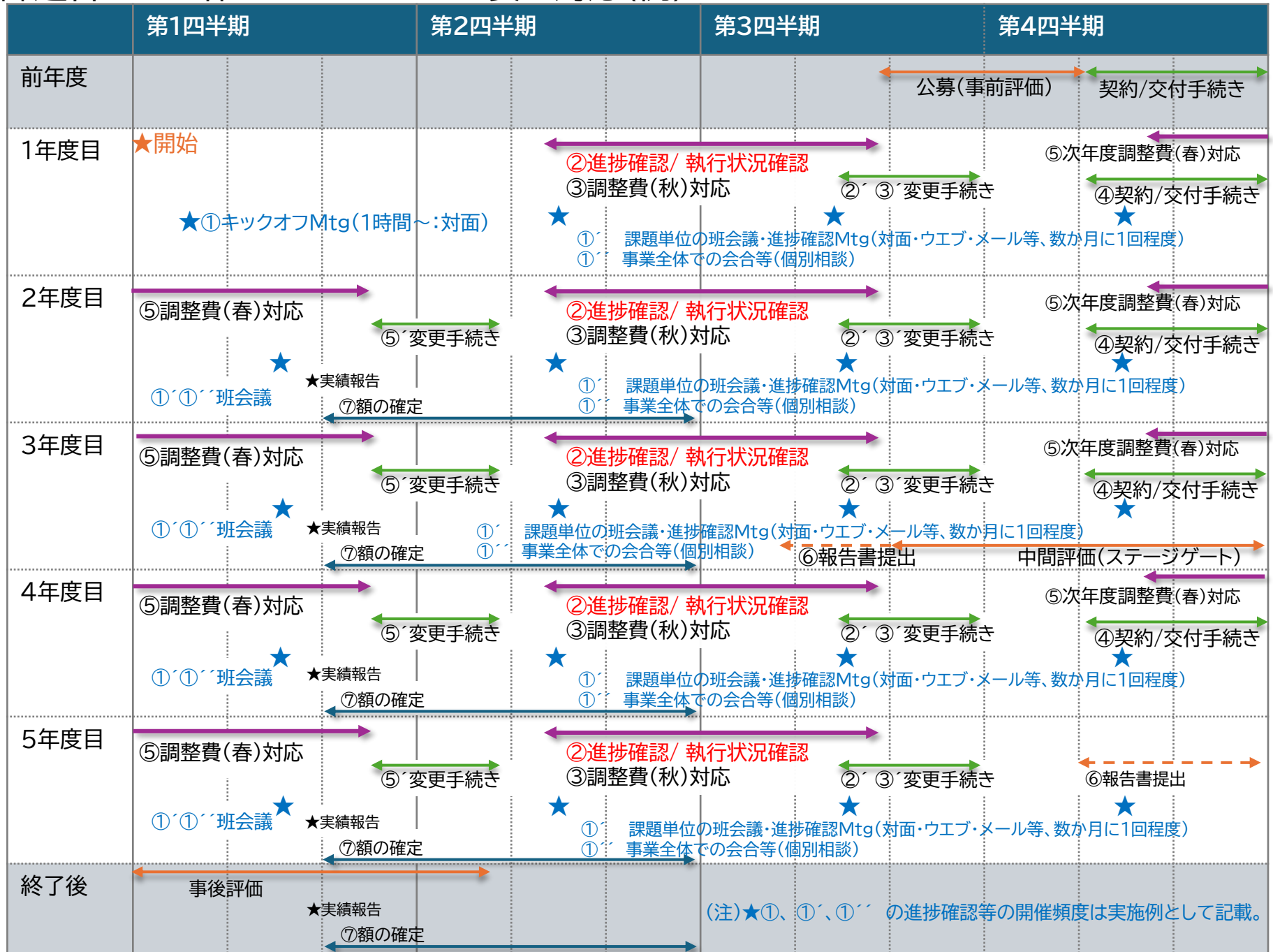
- ✓ 第3期中長期目標期間においては、出口を見据えた研究開発マネジメントの強化による優れたシーズの創出・実用化の加速への機能の発揮等が求められており、機構として、研究開発に係る業務を一層効果的に実施する必要があると認識しております。
- ✓ その実現のため、令和8年度以降は、研究開発課題の執行状況や内容の把握／調整なども行う進捗把握や実施時点までを確定したとする仮確定を含む実地による中間検査を中心とする運用へ移行いたします。(※1)
- ✓ あわせて、機構は、研究開発課題の事業期間中に、研究開発の進捗把握を行うとともに、研究開発費の執行の適正性を確認し、必要に応じて改善の指摘や調整を図ってまいります。
- ✓ 具体的な運用のイメージとして、2頁に研究開発課題の全体スケジュールと主要な対応例を示します。また、3頁以降に機構における課題管理の実施例を紹介いたします。(※2)

※1 AMED 事務処理説明会(令和8年2月6日開催)の「令和8年度以降の検査について」をご参照ください。

<https://www.amed.go.jp/news/program/jimu20260206.html>

※2 3頁以降は参考例であり、各事業の状況等に応じて実施されます。

課題管理の全体スケジュールと主要な対応(例)



班会議など課題ごとの研究者間で進捗を確認する会議の開催後に、AMEDタイム(班会議等も踏まえ、AMEDの事業担当者・経理担当者と研究機関の研究者・経理担当者による質疑応答)として30分～1時間程度を目安に設定(実施例)

班会議など研究者間で進捗を確認する会議

PSPOの総評

(AMEDは)研究者側の発表を聞いて、進捗として把握しつつ..

AMEDの事業担当者・経理担当者と研究機関の研究者・経理担当者による質疑項目の例

○進んでいるか

- 次の展開は？(次フェーズ展開、知財、導出等)
- 予算は執行できている？足りている？
- 予算で困ることはないか？

○進んでいなければ何に原因がある？

- そもそも研究開発のロジックに無理がある？(PSPOと相談も)
- 試料がない？(代替品ある？)
- 試料の品質が求められる？
- 動物を入手できない？(代替で行える？)
- 費用がかかる？場所がない？
- 人を集めているが応募がない(外注する？、今から間に合う？)
- 購入予定のものについて仕様が決まらない
- ものの購入に苦戦している？
- 患者リクルート？(計画に無理があるかもしれない？あるいは声がけする範囲を広げる？それでお金かかる？)

進捗状況や執行状況を確認して必要に応じて、AMEDタイムは、班会議と、別のタイミングでセットし、フィードバック(同日にフィードバックできたら、してもよい)

AMEDの事業担当者・経理担当者による作戦会議の実施

以前聞いていたこの点はどうなりましたか？

AMED
タイム

(班会議等も踏まえ、AMEDの事業担当者・経理担当者と研究機関の研究者・経理担当者による質疑応答)

ここに気づきました。こうしたらいいかもしれませんね？

①キックオフMtg後のAMEDタイムで話すこと（実施例）

●機関側：代表者＋課題コアメンバー

●AMED：事業担当者＋経理担当者

※執行において留意すべき点があれば、機関側経理担当者に同席してもらう

【目的】研究開発の進め方について意識合わせする

（参考にする書類：事前に目を通しておくもの）

- ・計画書、経費等内訳書、参加者リスト、事業で求めている書類等
- ・提案書

（聞く耳を働かせるところ）

・1年、3年、5年の長期計画

→中間評価（ステージゲート）までに何をどうやるのか（技術的な話をメインに、そしてリスペクトを示しつつ）

→年度内でどこまで達成できるのか

→何か困難な点がありそうか（技術的な点に加え、材料や機器、役務など購入の問題？人の配置？：PSPO同席でもよい内容）

・現時点での体制、役割分担、用いる施設や設備等

・数か月の進め方：実施内容と体制、役割分担の変遷、購入案件（経費等内訳とつき合わせつつやる、合目的性を聞き取る）

・当該研究開発実施の背景採択前（開始前）に何をしていたか、何が成果かを聞く

（経理担当者から執行の留意点について説明してもらう）⇒資料等を用意して、理解を深めてもらう形もあり

・執行の留意点を契約（交付）の点を踏まえ経理から説明する（対研究者を軸に行うが、機関側の経理にも同席してもらうと）

→流用の範囲を超える場合などは必ず相談

→購入において不安がある場合には、遠慮なく相談してもらう

・検査のことなども説明しておく（場合によっては実施するので、先生正しく執行してくださいね、迷ったら相談してくださいね）

① 1年度目後半から2年度目以降の進捗確認Mtg後のAMEDタイムで話すこと（実施例）

●機関側：代表者＋課題コアメンバー

●AMED：事業担当者＋経理担当者

※執行において留意すべき点があれば、機関側経理担当者に同席してもらう

【目的】研究開発の進捗をおさらい、今後についてどうするか確認、PSPOの指摘を踏まえた計画変更の相談

（参考にする書類：事前に目を通しておくもの）

- ・計画書、経費等内訳書、参加者リスト、事業で求めている書類等
- ・実績報告書(あれば)

（聞く耳を働かせるところ）

・現時点での体制、役割分担、用いる施設や設備等

→前年度で買ったもの、当該年度になって買ったものを確認、

・数か月の進め方：実施内容と体制、役割分担の変遷、購入案件（経費等内訳とつき合わせつつやる、合目的性を聞き取る）

・前の進捗確認から進んだところ、何か成果物になりそうな状況（論文、知財、導出等）はないか

（経理担当者から執行の留意点について説明してもらう）

・執行の留意点を契約（交付）の点を踏まえ経理から説明する（対研究者を軸に行うが、機関側の経理にも同席してもらうと）

→流用の範囲を超える場合などは必ず相談

→購入において不安がある場合には、遠慮なく相談してもらう

・検査のことなども説明しておく（場合によっては実施するので、先生正しく執行してくださいね、迷ったら相談してくださいね）